

国立大学法人
浜松医科大学
概要 2014

National University Corporation
Hamamatsu University School of Medicine



建学の理念

第1に優れた臨床医と独創力に富む研究者を養成し、第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する。

目的及び使命

浜松医科大学は、医学・看護学の教育及び研究の機関として、最新の理論並びに応用を教授研究し、高度の知識・技術及び豊かな人間性と医の倫理を身に付けた優れた臨床医・看護専門職並びに医学研究者・看護学研究者を養成することを目的とし、医学及び看護学の進展に寄与し、地域医学・医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康増進並びに福祉に貢献することを使命とする。

CONTENTS

1	建学の理念等
2	学長あいさつ
3	第二期 中期目標・中期計画
5	教育目標
6	沿 革
9	組 織
10	歴代学長・役員等
14	職員、学生等
20	国際交流
21	学内共同教育研究施設
24	附属図書館
25	地域・社会貢献
27	医学部附属病院
33	外部資金受入れ状況
34	財務、土地及び建物
35	配置図
36	案内図

平成26年度学事予定

4月7日	入学式
5月9～10日	滋賀医科大学との交流会
6月7日	開学記念日
7月下旬～8月	夏季休業
10月1日	医学科第2年次後学期編入学及び 大学院医学系研究科(博士課程)入学式
10月23日	解剖体慰霊祭
11月1～2日	医大祭
12月下旬～1月上旬	冬季休業
1月17～18日	大学入試センター試験
2月25～26日	前期日程入学試験
3月12日	後期日程入学試験
3月16日	学位記・修了証書授与式

ごあいさつ

浜松医科大学長
中村 達
NAKAMURA Satoshi

平成26年6月に浜松医科大学は開学40周年を迎えました。単科医科大学として、教育、研究、診療の各方面において、広く社会貢献をしています。平成25年度から27年度の3年間で大学改革加速期間と位置づけ、本学の特徴・強みを明らかにするよう努力しているところです。開学以来40年経過すると、老朽化ばかりでなく、スペースの狭隘、耐震強度不足がみられ、また新規に必要な部門が多く発生して、法人化後10年で生まれ変わるほど刷新してきました。

これまでに医学部医学科は3,460名、看護学科は1,099名、助産学専攻科は82名の卒業生を輩出し、医療のあらゆる分野で活躍しております。医学科、看護学科ともに国家試験では良好な成績を収め、医学教育については平成28年度から実施予定のカリキュラムの国際基準化を進めています。研究分野では論文数、競争的外部資金獲得は増加しており、良好な成果をあげていると評価しております。診療は病棟の新築および外来棟の改修がすべて終わり、最新の医療を提供しております。患者さんは素晴らしい環境で癒されておられると思います。本学は全ての面で社会に貢献していく所存でございます。皆様のご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。



第二期 中期目標・中期計画

(平成22年度から平成27年度までの6年間)

大学の基本的な目標

建学の理念を踏まえ、特に以下の事項について重点的に取り組む。

1. 医学および看護学の進歩に対応する能動的学習能力、問題探求・問題解決能力、そして、幅広い教養に基づく豊かな人間性と確固たる倫理観、国際性を育み、地域社会に貢献できる医師・看護専門職を養成すると共に世界に発信できる研究者の育成を目指す。
2. 光医学を中心とした独創的研究と新しい医療技術の開発推進に取り組む。特に、光技術の医学応用(メディカルフォトリクス)と生体内分子の詳細な画像化(分子イメージング)に関する研究を推進し、医学に関する総合的なイメージング研究の世界拠点となることを目指す。
3. 地域医療の中核病院として高度な医療を提供すると共に、病病・病診連携を促進し、地域社会のニーズと個々の病院機能に応じた医療ネットワークの構築を目指す。また、先駆的な医療を世界に発信するために、臨床教育の充実を図り、研究マインドを有する専門医の育成を推進する。
4. 先端的・学際的領域の基礎研究・臨床研究において、本学の特色を活かした産学官連携を推進し、研究成果の社会還元を目指す。

(目標数 29、計画数 66)

【教育】(目標7、計画17) ■ 地域医療を担う医師の養成 ■ 世界に発信できる研究者の育成 ■ 専門的知識及び技術を身につけた医師又は看護専門職の養成 ■ GPA等を用いた能力の評価	【社会貢献】(目標1、計画3) ■ 地域医療の向上 ■ 地域社会の教育に貢献	【点検・評価等】(目標2、計画4) ■ 評価結果を大学運営の改善に活用 ■ 積極的な情報発信
【研究】(目標4、計画11) ■ 光とイメージングによる医学への展開 ■ シーズとニーズの発掘 ■ 海外との共同研究の推進 ■ 若手研究者への支援	【業務運営の改善及び効率化】(目標3、計画8) ■ 組織の柔軟かつ機動的な編成・見直し ■ 適正な人事管理 ■ 事務処理の簡素化・迅速化	【その他】(目標4、計画6) ■ 計画的な施設整備・管理 ■ バリアフリー・環境保全の推進 ■ 法令遵守の運営 ■ 情報セキュリティ対策
【診療】(目標4、計画11) ■ 高度な医療の提供 ■ 患者第一主義の診療 ■ 新しい医療の導入 ■ 臨床教育の充実 ■ 地域医療機関等への医師の供給	【財務内容の改善】(目標4、計画6) ■ 自己収入の増加 ■ 経費の抑制 ■ 人件費改革 ■ 資産の効率的・効果的な運用	

平成26年度 年度計画 重点事項

- 大学改革や機能強化へ向けての重点的支援
- 組織体制の整備(ガバナンスの強化)
- グローバル化に向けた学生への支援
- 地域医療実習のための環境整備
- 組織の整備(国際認証カリキュラム担当)
- 研究環境の充実
- 研究推進のため新たな支援の実施
- 高度医療の充実を図る

具体例

- 学長特別補佐の新設
- 不正防止体制の整備
- 研究棟の整備
- 管理棟改修
- 授業科目の新設
- 学術交流協定校との交流を推進
- 海外での学会発表をサポート
- 専門的知識を持った技術職員の配置

国立大学改革プラン

文部科学省は、「日本再興戦略」(平成25年6月14日閣議決定)、「教育振興基本計画」(同日閣議決定)、「これからの大学教育等の在り方について(第三次提言)」(平成25年5月28日教育再生実行会議)等を踏まえ、今後の国立大学改革の方針や方策、実施方針をまとめた「国立大学改革プラン」を策定しました。

国立大学改革加速期間(平成25～27年度)

ミッションの再定義

文部科学省と意見交換を行い、研究水準、教育成果、産学連携等の客観的データに基づき、大学の強み・特色・社会的役割(ミッション)を整理しました。
今後、大学の強みや特色を最大限に生かし、機能強化につとめてまいります。

医学系分野

- 建学の理念等に基づき、患者第一主義の診療を实践できる優れた臨床医及び独創的研究や新しい医療技術の開発を推進できる医学研究者の養成を積極的に推進する。
- 地方公共団体等との密接な連携の下、静岡県内の地域医療の中核を担う医師の養成・確保や地域のニーズの高い専門医の養成等を積極的に推進する。
- 光技術の医学応用(メディカルフォトリクス)と生体内分子の詳細な画像化(分子イメージング)に関する研究や小児発達学研究等を始めとする研究の実績や産学官連携によるものづくりの実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。
- 治験拠点医療機関としての取組実績を活かし、高度で実施に困難を伴う治験等の実施を推進し、日本の医療水準の向上及び日本発のイノベーション創出を目指す。
- 県内唯一の医育機関及び特定機能病院としての取組や地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、被ばく医療機関等としての取組を通じて、静岡県における地域医療の中核的役割を担う。

保健系分野

- 建学の理念等に基づき、看護技術の習得のみならず、科学的な判断力や探究心を持ち、看護の実践・研究・教育分野において国内外で活躍できる人材の育成を目指す。
- 日本のものづくりの基盤である製造業が盛んな地域特性を踏まえ、産業保健、産業看護の発展・向上を担う観点から、研究・教育により地域に貢献する。
- 修士課程における急性・重症患者看護専門看護師教育の実績を始めとする専門的な医療人の育成を推進する。外国人居住者の多い静岡県西部の地域特性を考慮し、国際的視点をもって地域医療に貢献できる看護専門職の養成に力点を置く。

具体例

- 高機能シミュレーターによる中堅職員、後期研修医を対象とした指導医の育成
- 家庭医育成の取組と連携
- 次世代PET診断システムの研究開発
- 新しい副鼻腔手術用光学式ナビゲーションの実用化
- 小児発達学研究の推進
- メンタルヘルス対策事業、産業保健を中心に研修会、講演会の実施
- 在宅看護の現場を体験する実習プログラムの作成

教育目標

医学部医学科

自学自習の態度・研究心の育成、人間性・倫理性の養成、国際性の習得およびプロフェッショナリズム(コミュニケーション能力、倫理観等)を身につけた人材の育成を目指しています。

医学部看護学科

生命の尊厳を尊重する倫理観と豊かな人間性、科学的知識に裏付けられた看護実践能力をもつ看護専門職の育成を目指しています。

大学院医学系研究科医学専攻(博士課程)

1. 研究者としての倫理と誠実な人間性を養う。
2. 国際的な視野を持ち、豊かな知性と教養を身につける。
3. 問題発見能力を身につける。
4. 医学・医療に関する高度の専門的知識と技術に基づく問題解決能力を身につける。
5. 学術論文の作成能力を身につける。
6. 生涯にわたり自立して学問を探究する姿勢を養う。

大学院医学系研究科看護学専攻(修士課程)

1. 特定の専門分野での看護実践の場における研究活動を通じて、高度な専門的知識と技術の向上・開発を図る能力を修得する。
2. 看護学教育と実践活動の場において、専門性の高い教育的機能を果たす能力を修得する。
3. 看護実践を通じて、専門性と倫理観に基づくケアの提供と研究を行える能力を修得する。
4. 看護の専門領域に関わる新しい課題にチャレンジできる高度な能力を修得する。
5. 文化的、社会的背景を考慮して健康問題を捉え、国内外で活躍できる高度な能力を修得する。

助産学専攻科

1. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点に立って女性のライフステージ各期の健康課題に対応する能力を習得します。
2. 人間や環境への思いやりを大切に、助産師としての責任と自覚を持ち、母子およびその家族や地域の人々と良好な信頼関係を築くことができる能力を習得します。
3. 変動する社会のニーズや科学、技術の進歩に対応できる能力と科学的根拠に基づいた質の高い専門的知識・技術および実践能力を習得します。
4. 母子保健のニーズを助産師として敏感に捉え、保健・医療・福祉チームとの連携を図り、地域社会に貢献できる能力を身につけます。
5. 国際化する社会において、異なった文化圏の人々と交流をもち、助産師の援助を必要とするこれらの人々のニーズに対応できる国際的視点を身につけます。
6. 助産師としてのアイデンティティを育み、生涯を通して知的好奇心をもって研鑽することができる能力を習得します。

沿革

昭和48年	9月10日	静岡大学国立医科大学創設準備室設置
昭和49年	6月 7日	浜松医科大学設置 医学部医学科、 附属図書館及び事務局設置
		医学部に8講座 (解剖学第一、生理学第一、生化学第一、病理学第一、微生物学、内科学第一、外科学第一、放射線医学)、 9学科目 (倫理学、心理学、法学、数学、物理学、化学、生物学、英語、ドイツ語)開設
	7月 4日	医学部医学科第1回入学式
昭和50年	3月29日	講義実習棟竣工
	4月 1日	附属病院創設準備室設置 医学部に7講座 (解剖学第二、生理学第二、病理学第二、薬理学、内科学第二、産婦人科学、小児科学)開設
昭和51年	3月25日	福利施設棟竣工
	3月27日	体育館竣工
	5月10日	医学部に7講座 (衛生学、公衆衛生学、寄生虫学、法医学、外科学第二、整形外科、眼科学)開設
	12月11日	第1回解剖体慰霊祭
昭和52年	3月25日	基礎臨床研究棟竣工
	3月30日	RI動物実験施設、管理棟及び臨床講義棟竣工
	4月18日	医学部附属病院設置
		医学部に6講座 (内科学第三、精神神経医学、皮膚科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科学、麻酔学)開設
		医学部附属病院に15診療科 (第一内科、第二内科、精神科神経科、小児科、第一外科、第二外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、産科婦人科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科)設置
		医学部附属病院中央診療施設等 (検査部、放射線部、手術部、材料部)設置
		薬剤部・看護部設置
	11月28日	医学部附属病院の一部が竣工し、 外来診療を開始
	12月20日	医学部附属病院竣工
昭和53年	3月30日	廃棄物廃水処理施設竣工
	4月 1日	医学部に2講座 (生化学第二、脳神経外科学)開設
		医学部附属病院に2診療科 (第三内科、脳神経外科)設置
		廃棄物廃水処理センター設置
	5月25日	慰霊塔除幕式
	11月15日	附属図書館竣工
昭和54年	3月30日	プール及び福利厚生施設 職員会館(半田山会館)竣工
	4月 1日	医学部附属動物実験施設設置
	12月 8日	武道館竣工
昭和55年	3月26日	医学部医学科第1回卒業式
	4月 1日	大学院医学研究科博士課程 (形態系専攻、生理系専攻、生化系専攻、生態系専攻)設置
	4月26日	大学院医学研究科博士課程第1回入学式
昭和56年	4月 1日	医学部附属実験実習機器センター設置

昭和59年	2月18日	開学10周年記念式典
	3月26日	大学院医学研究科博士課程 第1回学位記授与式
	4月 1日	医学部に講座(歯科口腔外科学)開設
昭和60年	5月17日	健康管理センター設置
昭和62年	12月 5日	医学部附属病院開院10周年記念式典
昭和63年	5月25日	医学部附属病院中央診療施設等 (病理部)設置
	10月20日	基礎・臨床研究棟別館竣工
平成元年	6月28日	医学部に講座(臨床検査医学)開設
	10月 1日	医学部にメディカルホトニクス講座 (寄附講座)開設
平成 2年	3月20日	MRI-CT装置棟竣工
	6月 8日	医学部に学科目 (日本語・日本事情)開設
		麻酔学講座を麻酔・蘇生学講座に名称変更 医学部附属病院麻酔科を麻酔科蘇生科に 名称変更
平成 3年	4月12日	光子医学研究センター設置
		医学部附属病院中央診療施設等 (救急部)設置
平成 5年	4月 1日	医学部附属病院中央診療施設等 (集中治療部)設置
	6月17日	廃棄物廃水処理センターを医療廃棄物 処理センターに名称変更
	10月 1日	医学部に臨床薬理学講座(寄附講座)開設
平成 6年	5月20日	医学部附属病院中央診療施設等 (輸血部)設置
	6月 7日	開学20周年記念式典
平成 7年	4月 1日	医学部看護学科設置
		医学部に学科目(生命科学)開設
	4月25日	医学部看護学科第1回入学式
	6月 7日	医学部看護学科設置記念式典
	9月27日	情報処理センター設置
平成 8年	3月25日	国際交流会館竣工
	4月 1日	医学部看護学科に3講座 (基礎看護学、臨床看護学、地域看護学)開設
		医学部に学科目(情報科学)開設 医学部附属病院中央診療施設等 (医療情報部)設置
平成 9年	4月 1日	医学部附属病院中央診療施設等 (光学医療診療部)設置
	7月28日	看護学科棟の一部が竣工
	11月27日	医学部附属病院開院20周年記念式典
平成10年	2月16日	看護学科棟竣工
	3月30日	弓道場竣工
	4月 1日	医学部医学科に講座(臨床薬理学)開設 医学部附属病院中央診療施設等 (血液浄化療法部)設置
		医学部附属病院に2診療科 (循環器科、心臓血管外科)設置
平成11年	3月26日	医学部看護学科第1回学位記授与式
	4月 1日	大学院医学研究科を大学院医学系研究科に 名称変更し、修士課程(看護学専攻)設置

平成11年	4月 1日	医学部附属病院中央診療施設等 (リハビリテーション部)設置
	4月26日	大学院医学系研究科修士課程第1回入学式
	12月24日	光量子医学研究センター竣工
平成12年	4月 1日	事務局教務部に入学主幹、 総務部に情報企画室設置
平成13年	3月27日	大学院医学系研究科修士課程第1回学位記 授与式
	4月 1日	医学部附属病院中央診療施設等 (治験管理センター)設置
		光量子医学研究センター改組
	12月18日	探索的臨床研究施設竣工
平成14年	4月 1日	医学部医学科に講座 (救急医学)開設
		医学部附属病院中央診療施設等 (周産母子センター)設置
	9月 1日	医学部附属病院中央診療施設等 (遺伝子診療部)設置
	10月 1日	医学部医学科第2年次後期編入学第1回入学式
	11月 1日	医学部附属病院に診療科 (リハビリテーション科)設置
平成15年	3月 1日	医学部附属病院新生児特定集中治療室 (NICU)開設
	4月 1日	医学部附属病院中央診療施設等 (医療福祉支援センター)設置
	9月 3日	21世紀COEプログラムに 「メディカルフォトリクス」が採択
平成16年	4月 1日	国立大学法人浜松医科大学設立
		大学院医学系研究科博士課程の専攻を、光 先端医学、高次機能医学、病態医学、予防・ 防御医学に変更
		医学部附属病院中央診療施設の医療福祉 支援センター及び治験管理センターを医学部 附属病院の医療福祉支援センター及び臨床 研究管理センターに改組
		医学部附属病院に臨床研修センター及び医 療安全管理室設置
		事務局総務部庶務課を総務課と人事課に改 組、業務部の医事課を医療サービス課に改め 病院管理室を設置、教務部を学務部に改め 入学主幹を廃し入試課を設置
	11月13日	開学30周年記念式典
平成17年	4月 1日	医学部一般教育等の12学科目 (倫理学、心理学、歴史学、社会学、数学、物 理学、化学、生物学、英語、日本語・日本事情、 生命科学、情報科学)を総合人間科学講座に 改組
		医学部医学科の解剖学第一講座及び解剖 学第二講座を解剖学講座に改組
		医学部医学科の衛生学講座及び公衆衛生 学講座を健康社会医学講座に改組
		医学部附属病院中央診療施設 (栄養部)設置
		事務局業務部を病院部に改め、施設課を 総務部に編入
	5月25日	医学部附属病院中央診療施設 (化学療法部)設置
		医学部附属病院に外来化学療法センター設置

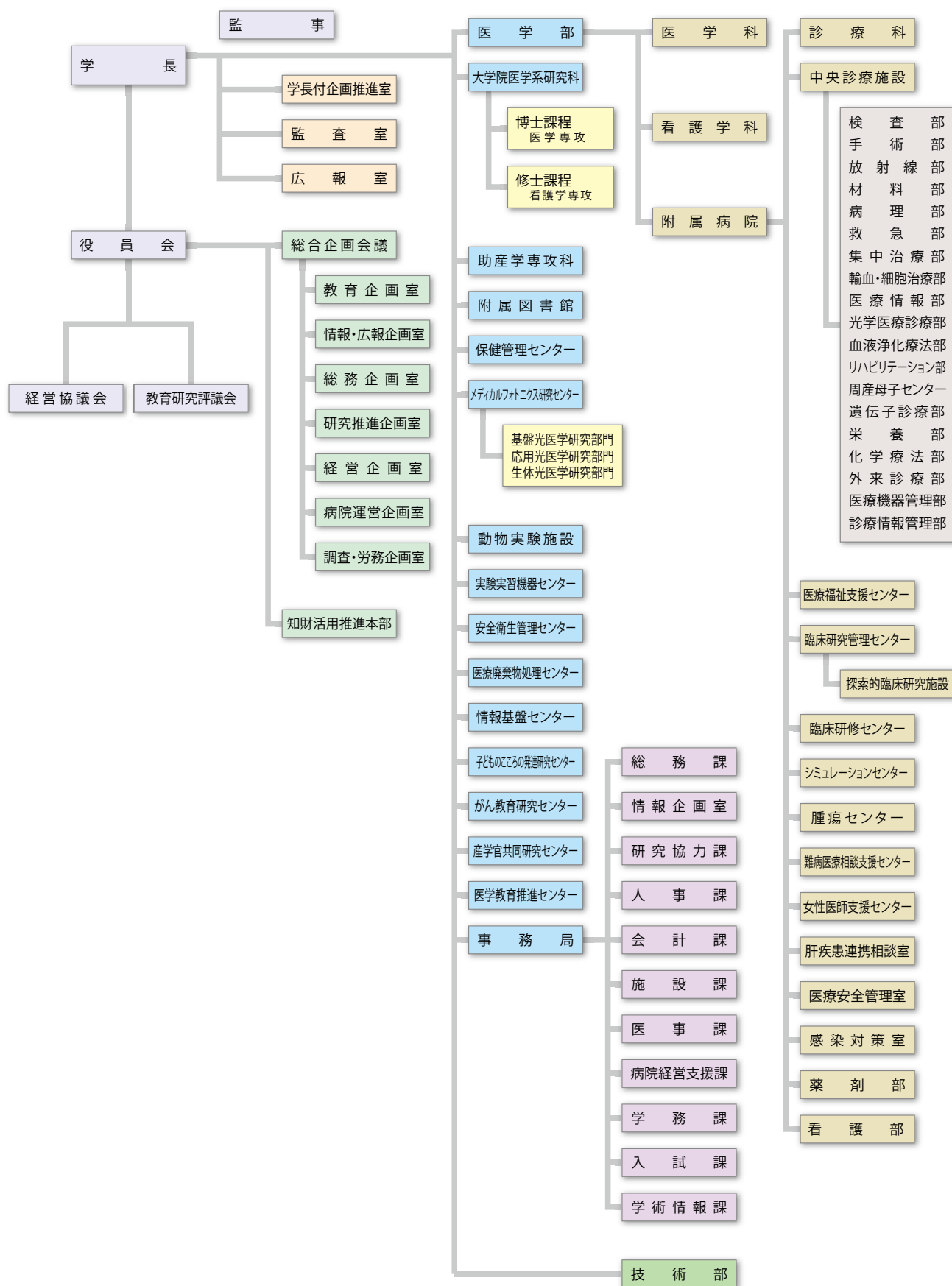
平成17年	7月 1日	医学部附属病院新生児強化治療室 (GCU)開設
平成18年	4月 1日	医学部医学科の微生物学講座及び寄生虫 学講座を感染症学講座に改組
		子どものこころの発達研究センター設置
		医学部附属病院に診療科 (心療内科)設置
		医学部附属病院中央診療施設 (外来診療部)設置
	7月 1日	監査室設置
		事務局総務部総務課に研究協力室設置
	10月 1日	医学部附属病院に診療科 (臨床薬理内科)設置
		医学部附属病院に腫瘍センター設置
平成19年	1月 1日	分子イメージング先端研究センター設置
		事務局病院部に 病院再整備推進事務室設置
	1月23日	医学部附属病院新病棟着工
	2月 1日	医学部附属病院に診療科 (形成外科)設置
	4月 1日	医学部に分子診断学講座 (寄附講座)開設
		医学部附属病院中央診療施設 (輸血部)を(輸血・細胞治療部)に改める
		医学部附属病院に 難病医療相談支援センター設置
	5月 7日	医大保育所さくら開所
	7月 1日	医学部附属病院中央診療施設 (医療機器管理部)設置
	10月 1日	がん教育研究センター設置
		医学部に地域医療学講座 (寄附講座)開設
	11月28日	医学部附属病院開院30周年記念式典
平成20年	1月 1日	分子イメージング先端研究センターに 分子解剖学研究部門開設
	4月 1日	助産学専攻科設置
平成21年	4月 1日	大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合 小児発達学研究科に参加
		事務局部制を廃止し、研究協力課及び 病院経営支援課設置
	6月29日	医学部附属病院新病棟竣工
平成22年	4月 1日	医学部附属病院中央診療施設 (診療情報管理部)設置
	5月 1日	医学部に児童青年期精神医学講座 (寄附講座)開設
平成23年	4月 1日	光量子医学研究センター及び分子イメージ ング先端研究センターを改組・統合し、メディカル フォトリクス研究センター設置
		産学官共同研究センター (PET-CT棟、サイクロترون棟)設置
		医学部に臨床医学教育学講座 (寄附講座)開設
	6月 9日	医学部附属病院に診療科 (病理診断科)設置
平成24年	1月 1日	医学部に地域周産期医療学講座 (寄附講座)開設

平成24年	4月 1日	医学部医学科の生理学第一講座を神経生理学講座、生理学第二講座を医生理学講座、生化学第一講座を分子生物学講座、生化学第二講座を医化学講座、病理学第一講座を腫瘍病理学講座、病理学第二講座を再生・感染病理学講座、精神神経医学講座を精神医学講座、耳鼻咽喉科学講座を耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座、救急医学講座を救急災害医学講座に名称変更
		大学院医学系研究科博士課程の専攻(光先端医学、高次機能医学、病態医学、予防・防御医学)を医学専攻に改組
		大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究科を大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科に変更
		医学教育推進センター設置
		医学部附属病院にシミュレーションセンター設置
		事務局の病院再整備推進事務室廃止
平成24年	5月28日	医学部医学科に講座(臨床腫瘍学)開設
	6月 1日	医学部に産婦人科家庭医療学講座(寄附講座)開設
	8月 1日	情報処理センターを情報基盤センターに改組 広報室設置
平成25年	4月 1日	医学部附属病院に診療科(小児外科)設置 医学部附属病院に肝疾患連携相談室及び感染対策室設置
	11月 1日	医学部に地域家庭医療学講座(寄附講座)開設
平成26年	2月 1日	医学部附属病院に女性医師支援センター設置
	4月 1日	学長付企画推進室設置



組 織

国立大学法人浜松医科大学



歴代学長・役員等

歴代学長	吉 利 和 昭和49年 6月 7日～昭和61年 3月31日	山 崎 昇 平成 8年 5月 1日～平成12年 4月30日
	中井 準之助 昭和61年 4月 1日～平成 2年 3月31日	寺 尾 俊 彦 平成12年 5月 1日～平成22年 3月31日
	川 島 吉 良 平成 2年 5月 1日～平成 8年 4月30日	中 村 達 平成22年 4月 1日～

学 長
中村 達

理事・副学長
教育・国際交流担当 小出 幸夫
評価・労務・安全管理担当 鈴木 修

理事・事務局長
財務担当 前田 広

理 事
経営・産学連携担当 非常勤 晝馬 明

経営協議会
学 長 中村 達
理 事 鈴木 修
理 事 前田 広
理 事 晝馬 明
副学長 今野 弘之
浜松市文化振興財団代表理事 伊藤 修二
慶應義塾大学信濃町キャンパス事務長 上杉 道世
医療研修推進財団理事長 猿田 享男
静岡県医師会長 篠原 彰
理化学研究所新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター長 永井 美之
浜松信用金庫理事長 御室健一郎
三重県立看護大学長 村本 淳子

監 事
西山 仁
非常勤 津田 紘

副学長
情報・図書館担当（附属図書館長） 針山 孝彦
研究担当（メディカルフォトンクス研究センター長） 蓑島 伸生
病院担当（病院長） 今野 弘之

学長特別補佐
国際認証カリキュラム担当 宮嶋 裕明
広報・社会貢献担当 山本 清二

教育研究評議会
学 長 中村 達
理 事 小出 幸夫
理 事 鈴木 修
理 事 前田 広
附属図書館長 針山 孝彦
保健管理センター長 宮嶋 裕明
メディカルフォトンクス研究センター長 蓑島 伸生
動物実験施設長 渡邊 裕司
実験実習機器センター長 福田 敦夫
副学長 今野 弘之
物理学・教授 笹倉 裕之
医生理学・教授 浦野 哲盟
薬理学・教授 梅村 和夫
産婦人科学・教授 金山 尚裕
基礎看護学・教授 永田 年

医 学 部

医学科／基礎講座(代表教員)

総合人間科学講座・倫理学	教授	森下 直貴
総合人間科学講座・心理学	准教授	田中 悟志
総合人間科学講座・法学	教授	大磯義一郎
総合人間科学講座・数学	教授	古屋 淳
総合人間科学講座・物理学	教授	笹倉 裕之
総合人間科学講座・化学	教授	藤本 忠蔵
総合人間科学講座・生物学	教授	針山 孝彦
総合人間科学講座・英語	教授	中安美奈子
総合人間科学講座・情報医学	教授	谷 重喜
解剖学講座(神経機能学分野)	教授	佐藤 康二
解剖学講座(細胞生物学分野)	教授	瀬藤 光利
神経生理学講座	教授	福田 敦夫
医生理学講座	教授	浦野 哲盟
分子生物学講座	教授	北川 雅敏
医化学講座	教授	三浦 直行
腫瘍病理学講座	教授	梶村 春彦
再生・感染病理学講座	教授	岩下 寿秀
薬理学講座	教授	梅村 和夫
感染症学講座(感染制御学分野)	教授	堀井 俊伸
感染症学講座(ウイルス学・寄生虫学分野)	教授	鈴木 哲朗
健康社会医学講座	教授	尾島 俊之
法医学講座	教授	渡部加奈子

看護学科(代表教員)

基礎看護学講座	教授	渡邊 泰秀
	教授	三浦 克敏
	教授	永田 年
	教授	片山 はるみ
臨床看護学講座	教授	森 恵子
	教授	佐藤 直美
	教授	安田 孝子
地域看護学講座	教授	巽 あさみ
	教授	鈴木 みずえ

医学科／臨床講座(代表教員)

内科学第一講座 (消化器・腎臓・神経内科学分野)	教授	宮嶋 裕明
内科学第二講座 (内分泌・呼吸・肝臓内科学分野)	教授	須田 隆文
内科学第三講座 (循環器・血液・免疫リウマチ内科学分野)	教授	林 秀晴
精神医学講座	教授	森 則夫
外科学第一講座 (心臓血管・呼吸器・一般(内視鏡)・乳腺外科学分野)	教授	椎谷 紀彦
外科学第二講座 (消化器・血管外科学分野)	教授	今野 弘之
脳神経外科学講座	教授	難波 宏樹
整形外科学講座	教授	松山 幸弘
皮膚科学講座	教授	戸倉 新樹
泌尿器科学講座	教授	大園誠一郎
眼科学講座	教授	堀田 喜裕
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	教授	峯田 周幸
放射線医学講座	教授	阪原 晴海
麻酔・蘇生学講座	教授	佐藤 重仁
産婦人科学講座	教授	金山 尚裕
小児科学講座	教授	緒方 勤
歯科口腔外科学講座	教授	加藤 文度
臨床検査医学講座	教授	前川 真人
臨床薬理学講座	教授	渡邊 裕司
救急災害医学講座	教授	吉野 篤人
臨床腫瘍学講座	教授	大西 一功

寄附講座(代表教員)

地域医療学講座	特任教授	山岡 泰治
児童青年期精神医学講座	特任教授	杉山登志郎
臨床医学教育学講座	特任准教授	五十嵐 寛
地域周産期医療学講座	特任准教授	飯嶋 重雄
産婦人科家庭医療学講座	特任教授	杉村 基
地域家庭医療学講座	特任教授	沖 隆
	特任教授	井上真智子

助産学専攻科(代表教員)

教授 安田 孝子

附属図書館

館 長	針山 孝彦
-----	-------

保健管理センター

センター長	宮嶋 裕明
-------	-------

メディカルフォトリクス研究センター

センター長	蓑島 伸生
-------	-------

基盤光医学研究部門	教授	蓑島 伸生
	教授	瀬藤 光利
	准教授	矢尾 育子
応用光医学研究部門 (寄附研究室)	教授	間賀田泰寛
	教授	山本 清二
生体光医学研究部門	特任教授	岡崎 茂俊
	教授	尾内 康臣

動物実験施設

施設長	渡邊 裕司
-----	-------

実験実習機器センター

センター長	福田 敦夫
-------	-------

安全衛生管理センター

センター長	鈴木 修
-------	------

医療廃棄物処理センター

センター長	藤本 忠蔵
-------	-------

情報基盤センター

センター長	谷 重喜
-------	------

子どものこころの発達研究センター

センター長	森 則夫
教授	武井 教使

がん教育研究センター

センター長	大西 一功
-------	-------

産学官共同研究センター

センター長	山本 清二
-------	-------

医学教育推進センター

センター長	梅村 和夫
-------	-------

学長付企画推進室

室 長	伊藤一二三
-----	-------

監査室

室 長	黒柳 年弘
-----	-------

広報室

室 長	鈴木 厚子
-----	-------

事務局

事務局長	前田 広
事務局次長(総務担当)	神村 茂
事務局次長(病院担当)	神村 茂
事務局次長(教育・国際交流担当)	清野 俊哉
総務課長	大森 達郎
情報企画室長	大森 達郎
研究協力課長	葛山 雅弘
人事課長	大谷 理恵
会計課長	坂本 和浩
施設課長	向井 和人
医事課長	柘植 智司
病院経営支援課長	鈴木 康正
学務課長	大木 清造
入試課長	太田 正人
学術情報課長	井上 恵美

医学部附属病院

病院長

今野 弘之

副病院長

教育・研修担当	須田 隆文
運営・管理担当	金山 尚裕
リスクマネジメント担当	松山 幸弘
患者サービス担当	桑原 弓枝

診療科（科長）

一般内科	今野 弘之
第一内科診療科群	教授 宮嶋 裕明
消化器内科	准教授 杉本 健
腎臓内科	講師 安田日出夫
神経内科	教授 宮嶋 裕明
第二内科診療科群	教授 須田 隆文
内分泌・代謝内科	講師 佐々木茂和
呼吸器内科	教授 須田 隆文
肝臓内科	病院講師 小林 良正
第三内科診療科群	教授 林 秀晴
循環器内科	教授 林 秀晴
血液内科	教授 大西 一功
免疫・リウマチ内科	講師 小川 法良
精神科神経科	教授 森 則夫
小児科	教授 緒方 勤
第一外科診療科群	教授 椎谷 紀彦
心臓血管外科	教授 椎谷 紀彦
呼吸器外科	准教授 船井 和仁
乳腺外科	病院講師 小倉 廣之
一般外科 (内視鏡外科を含む)	講師 和田 英俊
第二外科診療科群	教授 今野 弘之
上部消化管外科	教授 今野 弘之
下部消化管外科	教授 今野 弘之
肝・胆・膵外科	講師 坂口 孝宣
血管外科	准教授 海野 直樹
脳神経外科	教授 難波 宏樹
整形外科	教授 松山 幸弘
皮膚科	教授 戸倉 新樹
泌尿器科	教授 大園誠一郎

眼科	教授 堀田 喜裕
耳鼻咽喉科	教授 峯田 周幸
産科婦人科	教授 金山 尚裕
放射線科	教授 阪原 晴海
麻酔科蘇生科	教授 佐藤 重仁
歯科口腔外科	教授 加藤 文度
リハビリテーション科	病院教授 美津島 隆
形成外科	病院教授 深水 秀一
臨床薬理内科	教授 渡邊 裕司
病理診断科	病院教授 馬場 聡
小児外科	特任准教授 川原 央好

中央診療施設（部長・センター長）

検査部	教授 前川 真人
手術部	教授 佐藤 重仁
放射線部	教授 阪原 晴海
材料部	教授 椎谷 紀彦
病理部	病院教授 馬場 聡
救急部	教授 吉野 篤人
集中治療部	特任准教授 土井 松幸
輸血・細胞治療部	病院教授 竹下 明裕
医療情報部	教授 木村 通男
光学医療診療部	教授 峯田 周幸
血液浄化療法部	病院教授 加藤 明彦
リハビリテーション部	病院教授 美津島 隆
周産母子センター	病院教授 伊東 宏晃
遺伝子診療部	教授 緒方 勤
栄養部	病院教授 加藤 明彦
化学療法部	教授 大西 一功

外来診療部	教授 大園誠一郎
医療機器管理部	教授 林 秀晴
診療情報管理部	教授 堀田 喜裕

医療福祉支援センター

センター長	小林 利彦
-------	-------

臨床研究管理センター

センター長	渡邊 裕司
-------	-------

臨床研修センター

センター長	須田 隆文
-------	-------

シミュレーションセンター

センター長	五十嵐 寛
-------	-------

腫瘍センター

センター長	大西 一功
-------	-------

難病医療相談支援センター

センター長	宮嶋 裕明
-------	-------

女性医師支援センター

センター長	金山 尚裕
-------	-------

肝疾患連携相談室

室 長	小林 良正
-----	-------

医療安全管理室

室 長	松山 幸弘
-----	-------

感染対策室

室 長	前川 真人
-----	-------

薬剤部

部 長	川上 純一
-----	-------

看護部

部 長	桑原 弓枝
-----	-------

職員、学生等

職員数

区 分		学長	理事	監事	教授	准教授	講師	助教	小計	事務・技術 職員等	合計
事務局等	男	1	4	2					7	96	103
	女									39	39
医学部	男				46 (4)	25 (3)	2 (1)	72 (15)	145 (23)	9	154 (23)
	女				9 (1)	10 (1)	2	22 (2)	43 (4)	4	47 (4)
附属病院	男				4 (1)	11 (2)	35 (2)	41	91 (5)	149	240 (5)
	女						3 (1)	6 (1)	9 (2)	600	609 (2)
保健管理センター	男						1		1		1
	女									1	1
メディカルフォトリクス研究センター	男				5 (1)			5 (3)	10 (4)		10 (4)
	女					2			2		2
動物実験施設	男					1		1	2	2	4
	女										
実験実習機器センター	男									8	8
	女					1			1	4	5
医療廃棄物処理センター	男									2	2
	女									1	1
子どものこころの発達研究センター	男				1	3 (3)	1 (1)	5 (5)	10 (9)		10 (9)
	女							2 (2)	2 (2)		2 (2)
医学教育推進センター	男										
	女									1	1
知財活用推進本部	男							1 (1)	1 (1)		1 (1)
	女										
合 計	男	1	4	2	56 (6)	40 (8)	39 (4)	125 (24)	267 (42)	266	533 (42)
	女				9 (1)	13 (1)	5 (1)	30 (5)	57 (8)	650	707 (8)
	合計	1	4	2	65 (7)	53 (9)	44 (5)	155 (29)	324 (50)	916	1,240 (50)

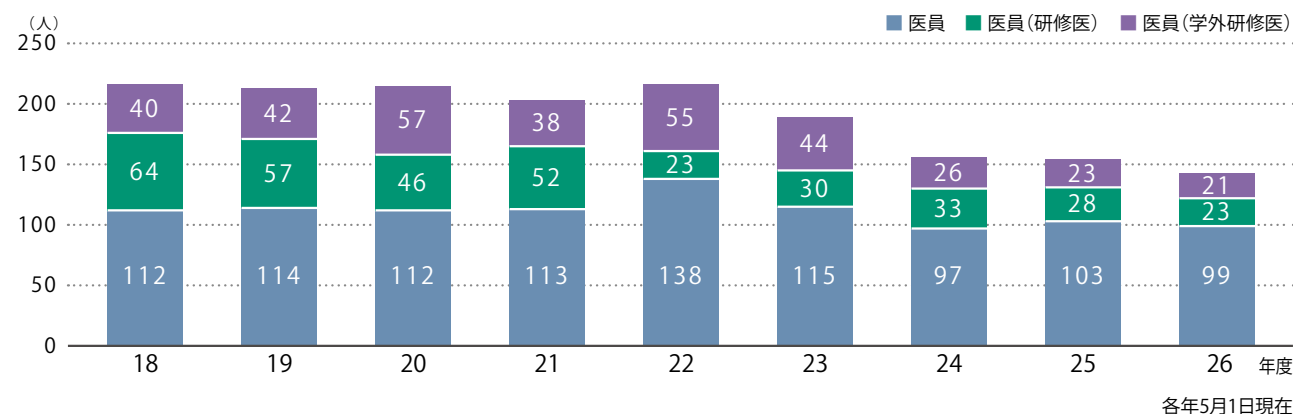
()内は特任教員を内数で示す

平成26年5月1日現在

区 分	医 員	医員(研修医)	合 計
男	69	10	79
女	30	13	43
合 計	99	23	122

平成26年5月1日現在

医員及び医員(研修医)の推移



医学部

医学科

高度の知識・技術及び豊かな人間性を身につけた臨床医並びに医学研究者を養成し、医学・医療の発展と人類の健康増進並びに福祉に貢献することを目的としています。

建学の理念に基づき、これまで多くの優れた臨床医を養成して静岡県はもとより全国各地の医療に貢献しつつ、最先端の研究も行っています。世界でも先駆的な研究の一例を挙げると、光を利用してがんを治療したり、光を用いて人体の機能を解析する新技術の開発があり、これの実践のための特別な研究センターを設けています。

また、卒業生は臨床医、医学研究者、医学教育者のみならず、産業医、医療福祉行政者などとしても活躍しており、活動分野は多岐にわたっています。



看護学科

看護の実践・研究・教育分野において国内外で活躍できる人材を育成することにより、看護学の発展と人類の健康増進並びに福祉に貢献することを目的としています。

本学では4年間の学部生活の間に学生が科学的考え方を身につけ、人への配慮ができる看護専門職に育つための教育を行っています。卒業生の中には本学大学院修士課程に進み、看護学教育・研究者への道を歩む者もいます。



入学定員及び現員

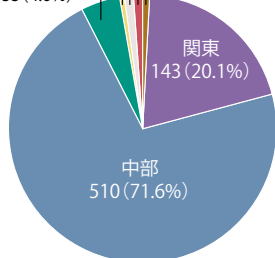
学 科	現 員	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合 計
医 学 科	入学定員 120(5)	男 74	83	83 (5)	76 (3)	81 (2)	74 (4)	471 (14)
	収容定員 705(25)	女 43	43	38 (1)	45 (2)	39 (2)	33 (2)	241 (7)
		合 計	117	126	121 (6)	121 (5)	107 (6)	712 (21)
看護学科	入学定員 70(10)	男 5	5	4 (1)	5 (1)			19 (2)
	収容定員 260(20)	女 66	52	63 (8)	61 (10)			242 (18)
		合 計	71	57	67 (9)	66 (11)		261 (20)

医学科の()内は、第2年次後期編入学を内数で示す
看護学科の()内は、第3年次編入学を内数で示す

平成26年5月1日現在

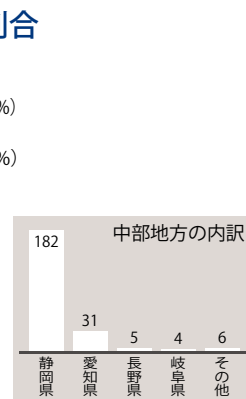
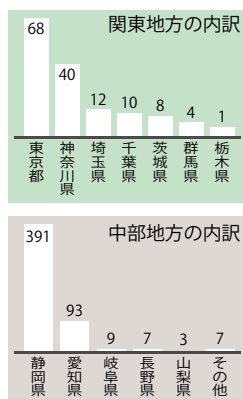
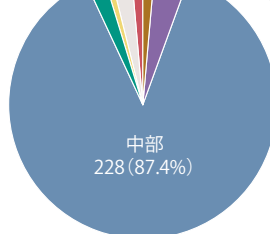
医学科地域別在学生数割合

九州 7(1.0%)
中国・四国 5(0.7%)
近畿 33(4.6%)
北海道・東北 7(1.0%)
外国等 7(1.0%)
関東 143(20.1%)
中部 510(71.6%)



看護学科地域別在学生数割合

九州 7(2.7%)
中国・四国 2(0.8%)
近畿 6(2.3%)
北海道・東北 4(1.5%)
外国等 3(1.1%)
関東 11(4.2%)
中部 228(87.4%)



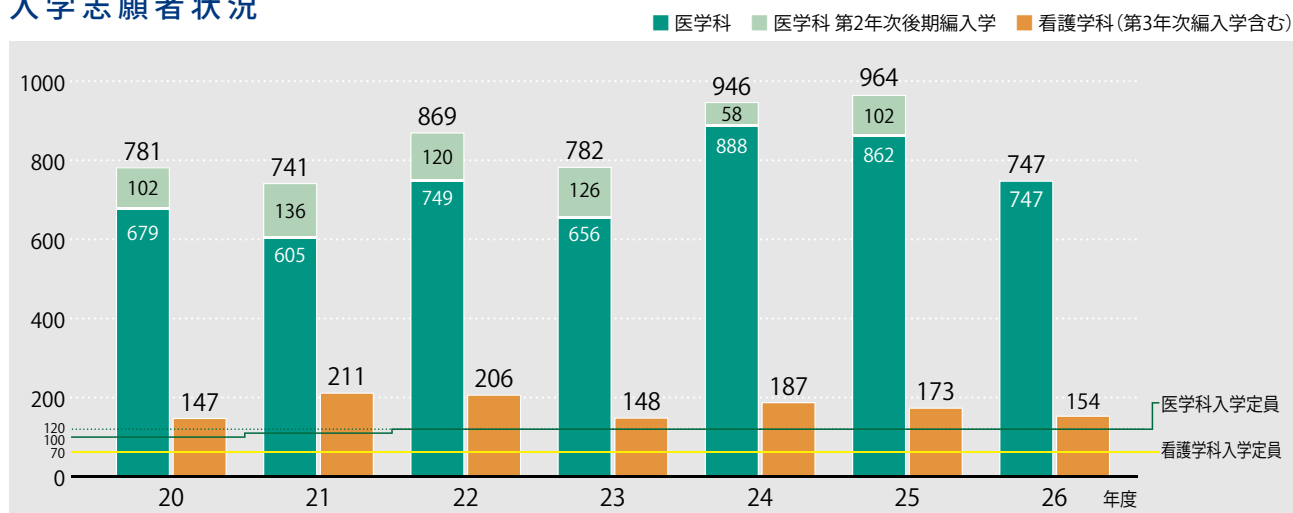
入学志願者及び入学者数

区 分	医 学 科						看 護 学 科					
	入学志願者			入学者			入学志願者			入学者		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
平成20年度	460 (69)	219 (33)	679 (102)	70 (5)	25 (0)	95 (5)	8 (2)	105 (32)	113 (34)	2 (1)	58 (9)	60 (10)
平成21年度	409 (88)	196 (48)	605 (136)	73 (2)	32 (3)	105 (5)	13 (1)	161 (36)	174 (37)	4 (0)	58 (10)	62 (10)
平成22年度	502 (89)	247 (31)	749 (120)	80 (4)	35 (1)	115 (5)	19 (0)	164 (23)	183 (23)	5 (0)	57 (10)	62 (10)
平成23年度	394 (85)	262 (41)	656 (126)	73 (3)	42 (2)	115 (5)	12 (1)	118 (17)	130 (18)	6 (1)	55 (9)	61 (10)
平成24年度	503 (33)	385 (25)	888 (58)	76 (3)	39 (2)	115 (5)	7 (2)	154 (24)	161 (26)	3 (1)	57 (9)	60 (10)
平成25年度	511 (65)	351 (37)	862 (102)	73 (4)	42 (1)	115 (5)	13 (2)	143 (15)	156 (17)	4 (1)	56 (9)	60 (10)
平成26年度	438	309	747	73	42	115	8 (1)	133 (12)	141 (13)	4 (1)	56 (8)	60 (9)

医学科の()内は、第2年次後期編入学を外数で示す
看護学科の()内は、第3年次編入学を外数で示す

平成26年5月1日現在

入学志願者状況



平成20年度は医学科の入学定員が100名(編入生含む)、平成21年度は110名(編入生含む)、平成22年度から120名(編入生含む)

研究生数

区 分	26年度
男	4
女	3

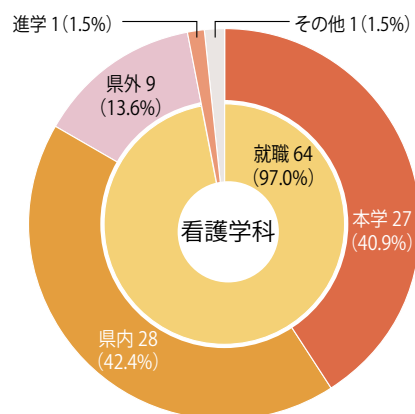
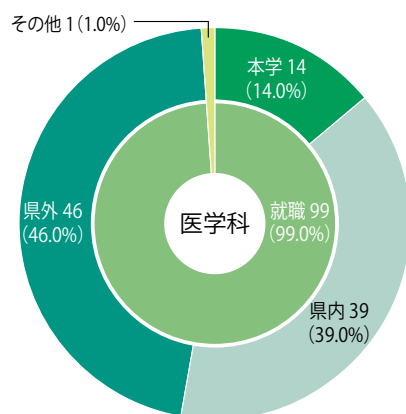
平成26年5月1日現在



卒業生数

区 分	医 学 科							看 護 学 科						
	S54~H20 年度計	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	合 計	H10~H20 年度計	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	合 計
男	2,184	67	66	76	67	75	2,535	32	4	4	1	5	5	51
女	782	35	31	26	26	25	925	723	65	65	67	67	61	1,048
合 計	2,966	102	97	102	93	100	3,460	755	69	69	68	72	66	1,099

平成25年度卒業生の進路状況



医師国家試験合格状況

区 分	新 卒			既 卒			総 数			全国順位
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	
第104回 2010	102	96	94.1	4	2	50.0	106	98	92.5	24
第105回 2011	97	94	96.9	8	6	75.0	105	100	95.2	8
第106回 2012	102	100	98.0	3	3	100.0	105	103	98.1	2
第107回 2013	93	87	93.5	2	1	50.0	95	88	92.6	28
第108回 2014	100	99	99.0	7	6	85.7	107	105	98.1	6

保健師・看護師国家試験合格状況（既卒者を含む）

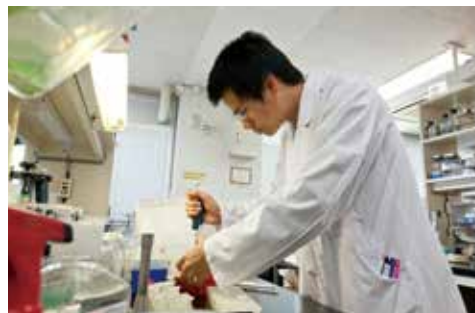
区 分	保 健 師			区 分	看 護 師		
	受験者	合格者	合格率		受験者	合格者	合格率
第 96回 2010	70	69	98.6	第 99回 2010	62	62	100.0
第 97回 2011	69	67	97.1	第100回 2011	59	59	100.0
第 98回 2012	69	67	97.1	第101回 2012	58	58	100.0
第 99回 2013	73	72	98.6	第102回 2013	62	62	100.0
第100回 2014	66	63	95.5	第103回 2014	57	57	100.0

大学院医学系研究科

博士課程

大学院医学系研究科医学専攻(博士課程)は、国際的にリーダーシップを発揮できる基礎医学研究者と臨床研究医を養成することを目的としています。即ち、光先端医学を中心に幅広い専門分野の授業科目を履修することを基礎に、基礎研究者を目指す学生には高度の専門的知識と技術を身につけ、独創的な先端研究を遂行できる能力を養成します。

また、臨床研究医を目指す学生には、臨床研究を更に推進することができるような研究マインドを持ち、臨床の現場で広く求められる応用力を養成します。



修士課程

大学院医学系研究科看護学専攻(修士課程)では、これまで修得した専門的知識・技術を基盤に、科学的思考力、問題解決力、創造性と基礎的な研究能力を養い、高度な実践能力と倫理観を備えた高度専門職業人、教育者及び研究者を養成します。



入学定員及び現員

博士課程

区 分		現員	1年	2年	3年	4年	合 計
光先端医学	※入学定員 11	男	—	—	—	9 (1)	9 (1)
		女	—	—	—	9 (2)	9 (2)
	※収容定員 44	合計	—	—	—	18 (3)	18 (3)
高次機能医学	※入学定員 5	男	—	—	0	6 (2)	6 (2)
		女	—	—	1	1 (1)	2 (1)
	※収容定員 20	合計	—	—	1	7 (3)	8 (3)
病態医学	※入学定員 8	男	—	—	1 (1)	16	17 (1)
		女	—	—	0	6 (1)	6 (1)
	※収容定員 32	合計	—	—	1 (1)	22 (1)	23 (2)
予防・防御医学	※入学定員 6	男	—	—	0	2	2
		女	—	—	2 (1)	3	5 (1)
	※収容定員 24	合計	—	—	2 (1)	5	7 (1)
医 学	入学定員 30	男	27 (2)	27 (3)	24	—	78 (5)
		女	8	12 (1)	7	—	27 (1)
	収容定員 120	合計	35 (2)	39 (4)	31	—	105 (6)

()内は10月入学を内数で示す
※は平成23年度以前の定員を示す

平成26年5月1日現在

修士課程

区 分		現員	1年	2年	合 計
看護学専攻	入学定員 16	男	3	5 (3)	8 (3)
		女	13	27 (13)	40 (13)
	収容定員 32	合計	16	32 (16)	48 (16)

()内は平成24年以前入学の長期履修者を内数で示す

平成26年5月1日現在

入学者数

区 分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
博士課程（男）	21	21	22	21	25	24	25
〃（女）	10	12	4	11	7	11	8
修士課程（男）	1	2	3	1	3	2	3
〃（女）	14	15	14	15	12	15	13

平成26年5月1日現在

学位授与者数

区 分	S58～H19 年度計	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
博士課程（医学）	515	35	28	27	26	24	28
論文博士（医学）	454	9	14	8	11	9	7
修士課程（看護学）	104	15	9	15	23	8	11

平成26年5月1日現在

研究生数

区 分	26年度
男	28
女	5

平成26年5月1日現在

助産学専攻科

国際人口開発会議提唱の「生涯にわたる女性の健康と性に関する権利」を基盤とした教育を行います。

母子及びその家族や地域の人々に寄り添い、対象のニーズに応え得る高度な診断能力、科学的根拠に基づいた質の高い助産技術と実践能力を身につけることにより、地域の周産期医療の充実、母子保健の発展に貢献できる人材を育成します。



入学定員及び現員

区 分	定 員		現 員
	入学定員	収容定員	1 年
助産学専攻科	16	16	16

平成26年5月1日現在

平成25年度修了者の進路状況

修了者 16	就 職	
	県 内	県 外
	4	12

助産師国家試験合格状況

区 分	助 産 師		
	受験者	合格者	合格率
第95回 2012	15	15	100.0
第96回 2013	16	16	100.0
第97回 2014	16	16	100.0

国際交流

外国人留学生

国名	大学院		合計
	国費	私費	
中国		7	7
バングラデシュ		5	5
ベトナム	1		1
パキスタン	1	1	2
インド		3	3
ポーランド	1		1
合計	3	16	19

平成26年5月1日現在

第13回慶北-浜松合同医学シンポジウム
(平成25年9月韓国)

国際交流協定・姉妹校

大学名等(国名)	締結年月日	協定等の内容
中国医科大学(中国)	1988. 4. 29	姉妹校協定
慶北大学校医科大学(韓国)	1992. 9. 7	学術交流協定
慶北大学校看護大学(韓国)	2005. 9. 23	
上海交通大学医学院(中国) (旧:上海第二医科大学)	2000. 3. 24	学術交流協定
フライブルク大学医学部 (ドイツ)	2003. 6. 30	学術交流協定
河南中医学院(中国)	2003.12. 8	学術交流協定
ジャウィストク医科大学 (ポーランド)	2004. 4. 19	学術交流協定
ダッカ大学(バングラデシュ)	2004.11.12	学術交流協定
シャジャラル科学技術大学 (バングラデシュ)	2004.11.12	学術交流協定
ボンゴボンデュ セイク ムシブ 医科大学(バングラデシュ)	2004.11.12	学術交流協定
广西医科大学(中国)	2004.11.21	学術交流協定
ワルシャワ医科大学(ポーランド)	2010. 4. 1	学術交流協定
ルブリン医科大学(ポーランド)	2010. 4. 5	学術交流協定
デュッセルドルフ大学(ドイツ)	2012. 8. 9	学術交流協定
ハワイ大学(アメリカ)	2012. 9. 6	学術交流協定
ヒッタイト大学(トルコ)	2013.12.17	学術交流協定

平成26年5月1日現在



国際交流のつどい(平成26年3月)



国際交流会館

国際交流会館の概要

区分	棟名	単身棟		世帯棟	
建築面積		206㎡		147㎡	
建物延面積		554㎡		567㎡	
室数	単身室 (14㎡)	20室		夫婦室 (40㎡)	6室
	ミーティングルーム (19㎡)	1室		家族室 (59㎡)	4室

学内共同教育研究施設

保健管理センター

TEL (053) 435-2156、2158

センター長 宮嶋 裕明

保健管理センターは学生と職員の健康を保持・増進するために、昭和60年に設置された。平成25年度に施設内部を全面改修して、より一層プライバシーを尊重した環境で、“こころ”と“からだ”両面の相談が行えるようにし、医師・保健師・看護師・臨床心理士などを充実して学内外の関連部門・施設との連携をより密接にした。また健康診断とその事後措置だけでなく、学内の環境衛生の整備、感染症対策、保健管理に関する調査・研究にも力を入れている。



メディカルフォトリクス研究センター

TEL (053) 435-2390

センター長 養島 伸生

副センター長 間賀田 泰寛

【基盤光医学研究部門】

- ・光イメージング研究室 (2092)
- ・光ゲノム医学研究室 (2390)
- ・システム分子解剖学研究室 (2292)

【応用光医学研究部門】

- ・分子病態イメージング研究室 (2398)
- ・イノベーション光医学研究室 (2391)
- ・医学分光応用寄附研究室 (浜松ホトリクス(株)寄附) (2235)

【生体光医学研究部門】

- ・生体機能イメージング研究室 (2466)

旧光量子医学研究センターと旧分子イメージング先端研究センターの統合により、平成23年4月1日に設置された。光とイメージングを医学に応用する研究の遂行と人材育成を目的としている。光・分子イメージングによる生命現象の探究、イメージング法を活用した診断技術と臨床診断用標識薬剤の開発、オミックス手法を活用した疾患原因追究、光による腫瘍の治療法の開発・改良等、多様な先端的研究が、培養細胞、動物、ヒト個体を対象として進行中である。



動物実験施設

TEL (053) 435-2000

施設長 渡邊 裕司

昭和54年に設立された動物実験施設は、医学における基礎研究としての動物実験の場と動物実験に関する専門的知識を研究者に提供するとともに、実験動物学の授業や卒業論文研究を通じて教育にも貢献している。さらに、ヒト疾患モデル動物としての突然変異マウスを独自の作出方法を用いて開発し、研究者へ提供することにより実験動物科学としての一分野を推進している。最近ではコモンマウスモセットの育種及び繁殖に力を注ぎ、学内利用の推進を図っている。



実験実習機器センター

TEL (053) 435-2300

センター長 福田 敦夫

実験実習機器センターは平成16年の法人化に伴い現在の形に改組された。本センターは中央機器分析室とRI施設、研究棟各階にある多様な共同実験室で構成されている。本センターは、日進月歩の生命科学研究に対応した、次世代DNAシーケンサー、高精度質量分析装置、各種イメージング装置、走査型電子顕微鏡等の多数の先端機器を有し、専門知識と技術を持った職員がこれらの研究機器による受託解析等を行い、本学の教育研究支援を担っている。



安全衛生管理センター

TEL (053) 435-2187

センター長 鈴木 修

安全衛生管理センターは平成15年4月に設置され、安全衛生管理に関する全学的事項を企画・立案するとともに、教育・研究に伴って発生するおそれのある環境汚染、健康障害、事故及び災害に対する安全衛生管理の徹底を図ることを目的としている。

主な取組としては、労働安全衛生法等に基づく作業環境測定、学内巡視、局所排気装置の自主点検、薬品調査等並びに職場における労働者の安全と健康の促進、快適な職場環境の確保のための5S活動等がある。



医療廃棄物処理センター

TEL (053) 435-2159

センター長 藤本 忠蔵

医療廃棄物処理センターでは、大学の研究室や病院から排出される廃水を活性汚泥や活性炭吸着などで適正に処理し、水質の分析を行ってから下水道に放流している。また、廃溶剤、廃酸、不要になった薬剤や実験器具などを回収し、適切な処理方法により分類してから廃棄物処理業者に処分を委託している。さらに、教職員・学生に対して、大学での廃水や医療系も含む廃棄物全般について分別処理方法の指導を行っている。



情報基盤センター

TEL (053) 435-2182

センター長 谷 重喜

情報基盤センターは、学内のネットワーク、メールサーバ、大学HPなど各種基幹サーバ、情報系実習室など、大学の情報基盤を提供、運営している。学内随所に無線LANのスポットが設置され、情報系実習室では教師と学生の双方向の画面提示や操作が可能となっている。今後も時代を先取りする情報基盤を提供していく。



子どものこころの発達研究センター

TEL (053) 435-2331

センター長 森 則夫

浜松医科大学、大阪大学、金沢大学、千葉大学、福井大学に設置された「子どものこころの発達研究センター」は、わが国における最高水準の子ども研究・教育・支援機関として発展を遂げている。本センターの目的は、知る-『子どものこころの危機』の背景を探り、育む-『こころの危機』をもつ子どもたちを支える実践的手法を開拓するとともに、5大学の連合小児発達学研究所(連合大学院)の教育活動を通じて<子どものこころの専門家>を育成することにある。



がん教育研究センター

TEL (053) 435-2266

センター長 大西 一功

がん教育研究センターは、臓器横断的、職種横断的ながん診療を担う人材育成を行うとともに、がん領域の先端的な研究を推進することを目的として平成19年10月に設置された。本センターでは文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プラン」を実施するため、本学大学院に名古屋大学等と連携して「がんプロフェッショナル養成コース」を開設し、博士課程4年間にがん臨床とがん研究の両者をバランスよく按分することによって、効率的に化学療法・緩和ケア・放射線治療に関する腫瘍専門医及び腫瘍専門薬剤師の養成を目指す。これには「臨床腫瘍コース」、「放射線医学コース」、「薬剤学コース」の3コースがある。大学院コース以外にも「インテンシブコース」があり、さらに高度な化学療法、放射線療法、薬剤学を実践を通して学ぶことができる。

このプロジェクトは平成24年4月からは文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に引き継がれ、本学では平成24年5月に新たに「臨床腫瘍学講座」が設置され、がん教育研究センターの業務も新講座に移行した。



産学官共同研究センター

TEL (053) 435-2438

センター長 山本 清二

ものづくり地域「浜松」の技術力と産業開発力に「医療・医学」のシーズ・ニーズを加え「健康・医療産業」を創出・確立していく事業である、JST地域産学官共同研究拠点整備事業「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点事業」の中核施設として平成23年4月に設置された。サイクロترون棟、PET-CT棟からなり、産学官共用設備を持つ。学内の研究用MRI、CT、動物用PETも管理し、小動物からヒトまでを対象としたイメージング装置を備えたユニークな施設である。対外的には産学官・医工連携のワンストップ窓口として活発に活動している。



医学教育推進センター

TEL (053) 435-2843

センター長 梅村 和夫

医学教育推進センターは、医学及び看護学の教育等の改善のための諸活動を体系的に行い、教育の質の向上を図ることを目的に、平成24年4月に設置された。主な活動として、教育システム及びカリキュラム、PBL・チュートリアル教育、共用試験(CBT, OSCE)及びAdvanced OSCE、参加型臨床実習等に関する調査、研究、実施及び評価を行うこととしている。

さらに、それらを横断的に統括し、より良いカリキュラムを構築するための活動をしている。また、「世界標準の医学教育」の認証を得られるカリキュラム改革を進め、医学教育に関する最新情報の発信基地として位置づけられている。



附属図書館

附属図書館は、本学の学術情報基盤の一部であり、印刷資料や電子ジャーナル・各種データベース、そして本学の学術成果物を電子的に蓄積して広く学外へ発信する学術機関リポジトリを設置・運用するなど、電子図書館的機能を強化しています。

また、これらの学術情報資源を十分に活用できるよう、学生・教職員対象の情報リテラシー教育支援を行う等、知的創造活動の拠点としての機能も担っています。平成25年4月からはラーニング・commonsを開設して、多様な学習スタイルのニーズに応じた学習空間を提供しています。

さらには、近隣医療従事者への資料の貸出、県内外の病院等と連携した文献複写提供サービスなど、地域へのサービスにも務めています。

開館時間

平日 9:00～20:00
土・日曜 10:00～17:00

本学構成員は、24時間入館可能な特別利用制度利用を申請できます。



貴重資料

明治11～12年に浜松医学校
教官らが米国の医学書を翻
訳出版した『七科約説』



利用状況

区 分		学内者(人)	学外者(人)	合計(人)
入館者数	開館時間内	76,119	2,011	78,130
	開館時間外	40,402	327	40,729
	合 計	116,521	2,338	118,859

区 分	図 書(冊)	雑 誌(冊)	視聴覚資料(点)
貸出冊数	7,103	383	160

区 分	受付数(件)	依頼数(件)
文献複写	3,883	2,037

平成25年度



2階ラーニング・commons

蔵書数

区 分	和	洋	合 計
図 書	57,588冊	32,183冊	89,771冊
雑 誌	1,244種	1,084種	2,328種
視聴覚資料	1,173点		1,173点
電子書籍	80タイトル	35タイトル	115タイトル

平成26年3月31日現在

資料受入数

区 分	和	洋	合 計
図 書	2,006冊	260冊	2,266冊
雑 誌	362種	77種	439種
視聴覚資料	93点		93点
電子ジャーナル	6,611種		6,611種
電子書籍	80タイトル	27タイトル	107タイトル

平成25年度



1階ラーニング・commons AV視聴コーナー



1階ラーニング・commons

地域・社会貢献

浜松医科大学では、教育、研究に次いで、社会貢献を第三の重要な事業活動と位置づけ、これに対する取組を進めています。医科大学としての社会貢献の第一は、附属病院における医療活動です。外来診療、入院治療、救急処置、検査等、多数の活動をしています。地域社会に対する様々な支援事業が第二の活動で、相談会や市民・中高生に対する各種講座を開催するなどしています。第三の活動として、大学の中で考案された新しい技術を実際に使えるものとして企業に移転したり、専門能力を生かして企業の事業化を支援したり、共同研究をしたりする産学官連携事業があります。



社会貢献事業への支援

本学における社会貢献活動を推進するため、教員等による活動実績に対して支援を行っています。平成25年度は「地域教育に対する活動」16件、「地域医療や公衆衛生に貢献する社会活動」11件を採択しました。

地域教育に対する活動

活動名	対象	担当
アメリカツメガエルの中身を知り、カエルの発生を観察しよう	小中学生	医化学講座
第7回寄生虫検査・実習研修会	県内外の臨床検査技師	感染症学講座(ウイルス学・寄生虫学分野)
ひらめき☆ときめきサイエンス 「体の仕組みを自分の眼で確かめよう」	高校生	基礎看護学講座
輸血と細胞医療の医学の紹介	中高校生	輸血・細胞治療部
第20回日本遺伝子診療学会大会 市民フォーラム 「ここまでできた!ここまでわかる!!こんなこともできる!!!遺伝子治療」	一般市民	臨床検査医学講座
視覚障害者への接し方	小学生	眼科
静岡県こどもの精神保健フォーラム	こどもの精神保健に携わる 医療従事者、児童相談所職員、 自治体行政職員	精神医学講座
医学シミュレーションによる「親子で学ぶ医学セミナー」	小学生及び保護者	臨床医学教育学講座
市民公開講座 「安全な体力づくり～熱中症及び重症頭部外傷対策～」	一般市民	医生理学講座
地域科学館特別展への協力および講演	小中学生	総合人間科学講座(生物学)
八丈島中学校での講演(八丈島発光生物研究集会)	中学生	総合人間科学講座(生物学)
高校生の科学部活動支援事業 「Gladiolus liliaceus花被片の光による色変化の解析」	高校生	総合人間科学講座(生物学)
日本固有種である 「ニホンミツバチ」を教材とした地域貢献事業	高校生	総合人間科学講座(生物学)
市民公開講座「減塩で健康寿命を延ばそう ～高血圧・慢性腎臓病から身を守る～」	一般市民	第一内科
前立腺市民公開講座「50歳を過ぎたら」	一般市民	泌尿器科
磐田南高等学校・浜松医科大学高大連携の実習プロジェクト	高校生	再生・感染病理学講座

平成25年度

地域医療や公衆衛生に貢献する社会活動

活 動 名	対 象	担 当
静岡県版の患者向け在宅血液透析リーフレットの作成	県内透析施設	血液浄化療法部
自治体等への保健活動・調査支援講座	県内自治体、地域医療事業所	健康社会医学講座
県西部病院材料部連絡協議会	市内8病院材料部代表者	材料部
静岡リウマチネットワーク	関節リウマチ患者	第三内科
中山間地域自治体における運動器の健康の啓発と運動器検診の導入	地域住民	整形外科科学講座
福祉と医療を結ぶ回想法メイト育成講座	高齢者、地域住民、保健・医療・福祉従事者	地域看護学講座
産後抑うつへの予防に向けた地域連携システムの確立ーHamamatsu Birth Cohort (HBC) Studyに基づいてー	周辺施設、浜松市保健所	子どものこころの発達研究センター
浜松出生コホート研究結果波及活動	浜松出生コホート研究参加者	子どものこころの発達研究センター
緊急スクールカウンセラー派遣事業	福島県の小学校、中学校	児童青年期精神医学講座
浜松医大精神科・児童精神科合同連続講座	医学生、研修医、小児科医、精神科医	児童青年期精神医学講座
障がいのある子どもと家族のための社会貢献事業	医療的ケアの必要な子どもと家族	臨床看護学講座

平成25年度

産学官連携活動

日々の教育・研究・診療の中から生まれる多くの研究シーズ、知的財産、ノウハウ、暗黙知等を「知」という大切な財産であると考えます。この「知」を他大学や民間機関等と連携して社会に還元していく産学官連携活動を積極的に進めています。

活 動 名	連 携 相 手 先	担 当
マイクロニードルのデリバリシステム構築	企業（浜松市）	皮膚科学講座
外来診療で利用できるレントゲン写真の3次元評価装置の開発	企業（浜松市）	整形外科
乳癌診断のための光マンモグラフィの開発と臨床評価	企業（浜松市）	放射線科、乳腺外科
レーザー血栓溶解治療システムの開発	企業（浜松市）、他医療機関	薬理学講座
酸化オスミウム（VIII）廃液のリサイクル技術の構築	企業（浜松市）	医療廃棄物処理センター
瞳関数制御による高度多機能光学顕微鏡の開発	企業（浜松市）、他大学	メディカルフォトニクス研究センター
顕微質量分析装置の実用化開発	企業（県外）、他大学	メディカルフォトニクス研究センター
低侵襲手術支援システムの実用化と臨床研究	企業（浜松市 他）、他大学	メディカルフォトニクス研究センター
次世代害虫駆除装置の開発	企業（県外）	総合人間科学講座（生物学）
凍結治療装置の実用化開発	企業（県外）	放射線部
低侵襲内視鏡および顕微鏡手術支援3D超音波診断装置の開発	企業（浜松市 他）	メディカルフォトニクス研究センター
PAI-1阻害に基づく造血幹細胞移植での造血機能改善薬の開発	企業（県外）	探索的臨床研究施設
精神的価値が成長する感性イノベーション拠点	企業（浜松市 他）、他大学	メディカルフォトニクス研究センター

平成25年度

公開講座

平成25年度公開講座「元気で長生きするためにー長寿の医学ー」が全5回（7月下旬～8月下旬）にわたり開催され、毎回100名以上の受講者が熱心に聴講されました。

本公開講座は昭和54年から毎年開催しており、平成25年度で第35回目となりました。今後も地域の皆様のご期待に添えるような公開講座を開講し、大学の重要な使命の1つとして求められている地域社会への貢献に努めていきたいと考えています。

医学部附属病院

病院の 理念

患者さんの人権を尊重し、地域の中核病院として安全で良質な医療を提供する。
さらに、大学病院として高度な医療を追求しつつ優れた医療人を育成する。

基本方針

1. 患者さんの意思を尊重した安心・安全な医療の提供
2. 社会・地域医療への貢献
3. 良質な医療人の育成
4. 高度な医療の追求
5. 健全な病院運営の確立

医療機関の指定状況等

法 令 等 の 名 称	許可機関名	指定等の年月日
医療法による開設許可(承認)	厚生労働省	昭和52年 3月29日
健康保健法による保険医療機関	厚生労働省	昭和52年11月15日
国民健康保険法による保険医療機関	厚生労働省	昭和52年11月15日
老人福祉法による医療機関	厚生労働省	昭和52年11月25日
母子保健法による妊娠乳児健康診断	静岡県ほか一部の地方自治体	昭和53年 2月 1日
総合病院の名称承認	厚生労働省	昭和53年 2月17日
障害者自立支援法による自立支援医療(育成医療)	静岡県	昭和53年 4月 1日
障害者自立支援法による自立支援医療(更生医療)	静岡県	昭和53年 4月 1日
戦傷病者特別援護法による医療機関	厚生労働省	昭和53年 4月 1日
生活保護法による医療機関	厚生労働省	昭和53年 5月 1日
障害者自立支援法による自立支援医療(精神通院医療)	静岡県	昭和53年 7月 1日
母子保健法による養育医療	厚生労働省	昭和53年 7月22日
労災補償法による医療機関	静岡労働基準局	昭和53年 8月 1日
原爆医療法による一般医療	静岡県	昭和54年 2月 1日
トロントラスト沈着症に対する定期検診の指定医療機関	静岡県	昭和54年 8月 1日
臨床修練指定病院(外国人医師・外国人歯科医師)	厚生労働省	昭和63年 3月29日
消防法による救急医療(救急病院)	静岡県	平成 4年 2月12日
特定機能病院の名称承認	厚生労働省	平成 7年 3月 1日
エイズ治療の拠点病院	静岡県	平成 8年 3月19日
地域災害拠点病院	静岡県	平成 8年12月26日
結核指定医療機関	厚生労働省	平成10年 6月 2日
地域周産母子医療センターの指定	静岡県	平成10年10月 1日
開放型病院	厚生労働省	平成17年 5月 1日
地域がん診療連携拠点病院	厚生労働省	平成19年 1月31日
難病医療拠点病院	静岡県	平成19年 4月 1日
治験拠点医療機関	厚生労働省	平成19年 7月 2日
静岡県肝疾患診療連携拠点病院	静岡県	平成21年 3月 9日
静岡DMAT指定病院	静岡県	平成24年 3月 1日



医学部附属病院(病床数613床)

看護体系

区 分	看護配置等	届出年月日
一般病棟	特定機能病院 入院基本料 7:1	平成21年 5月 1日
精神病棟	特定機能病院 入院基本料 13:1 看護補助加算2(50:1)	平成23年 7月 1日

先進医療承認一覧

先進医療の名称	算定開始年月日
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	平成19年 6月 1日
IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価	平成23年 3月 1日
単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断(リアルタイムPCR法)	平成23年11月 1日
EBウイルス感染症迅速診断	平成24年 2月 1日
神経変性疾患の遺伝子診断	平成24年 7月 1日
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による 骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	平成24年 9月 1日
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	平成25年 1月 1日
パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法 腹膜播種又は進行性胃がん(腹水細胞診又は腹腔洗浄細胞診により遊離がん細胞を認めるものに限る。)	平成25年11月 1日

平成26年4月1日現在

探索的臨床研究施設 TEL(053)435-2006

部 長 梅村 和夫

平成14年3月に医学部附属病院に併設された臨床研究専門施設として設立されました。この施設では、早期探索的臨床試験、POC試験、臨床第1相試験、医師主導治験(第1相試験)などを行っています。なお、本施設は、浜松ホトニクス株式会社の寄附により発足しました。

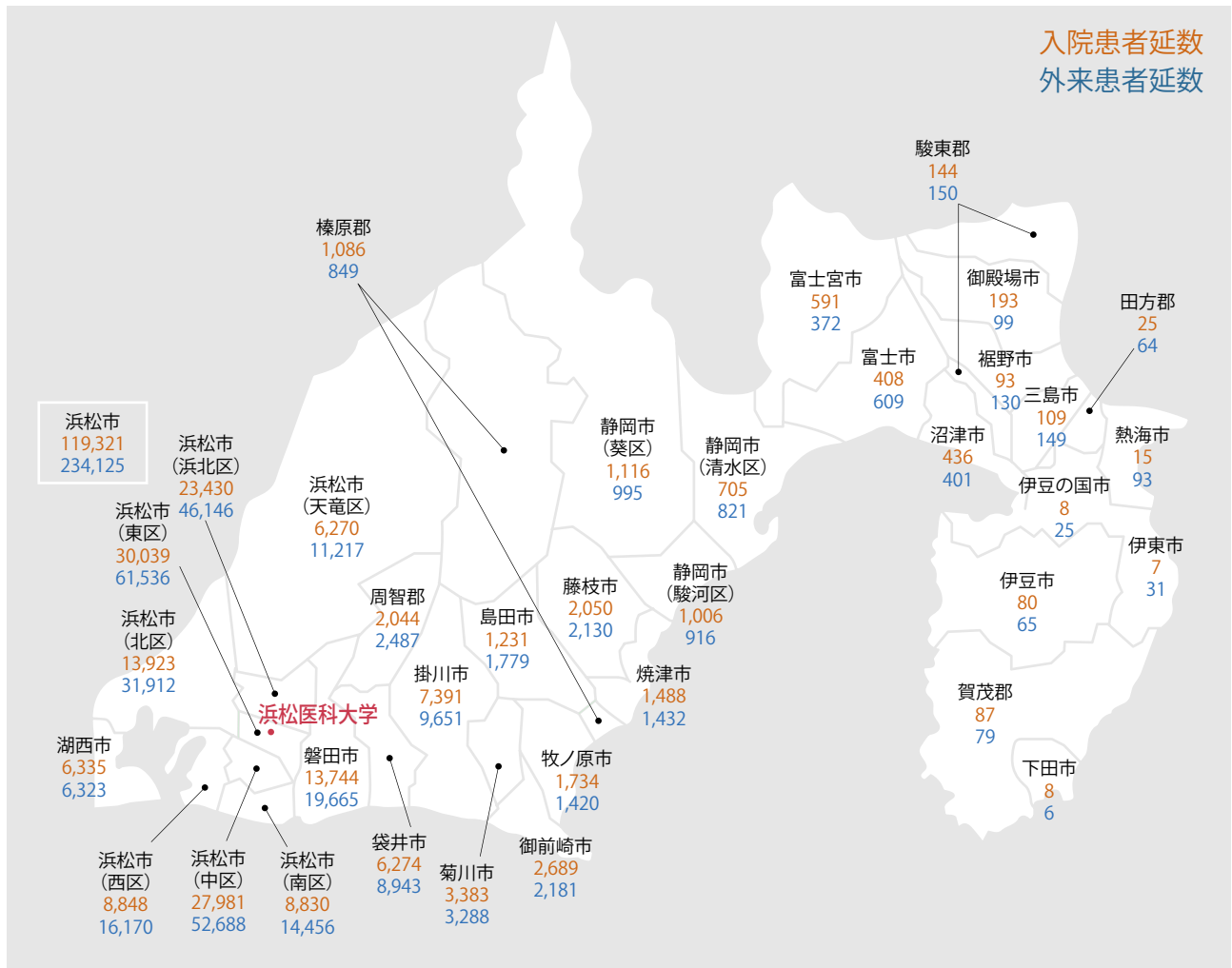


診療科別患者数

診療科		入院患者		外来患者	
		延数	1日平均	延数	1日平均
第一内科	消化器内科	9,226	25.3	10,929	44.8
	腎臓内科	4,594	12.6	6,113	25.1
	神経内科	2,384	6.5	3,424	14.0
第二内科	内分泌・代謝内科	3,126	8.6	20,999	86.1
	呼吸器内科	9,779	26.8	11,728	48.1
	肝臓内科	3,312	9.1	7,212	29.6
第三内科	循環器内科	7,241	19.8	12,746	52.2
	血液内科	9,530	26.1	8,514	34.9
	免疫・リウマチ内科	1,442	4.0	4,421	18.1
	精神科神経科	13,185	36.1	18,441	75.6
	小児科	13,110	35.9	14,913	61.1
第一外科	心臓血管外科	7,328	20.1	2,514	10.3
	呼吸器外科	3,078	8.4	1,594	6.5
	乳腺外科	1,106	3.0	5,767	23.6
	一般外科	1,964	5.4	1,828	7.5
第二外科	上部消化管外科	5,490	15.0	5,147	21.1
	下部消化管外科	4,408	12.1	4,511	18.5
	肝・胆・膵外科	4,433	12.1	2,562	10.5
	血管外科	4,285	11.7	4,161	17.1
	脳神経外科	8,474	23.2	7,683	31.5
	整形外科	15,161	41.5	22,241	91.2
	皮膚科	4,175	11.4	21,166	86.7
	泌尿器科	8,459	23.2	16,197	66.4
	眼科	5,522	15.1	19,571	80.2
	耳鼻咽喉科	10,026	27.5	17,822	73.0
	産科婦人科	12,662	34.7	16,853	69.1
	放射線科	1,108	3.0	7,050	28.9
	麻酔科蘇生科	114	0.3	3,011	12.3
	歯科口腔外科	3,308	9.1	10,554	43.3
	リハビリテーション科	—	—	4,369	17.9
	形成外科	4,735	13.0	5,977	24.5
	臨床薬理内科	88	0.2	690	2.8
	小児外科	40	0.1	391	1.6
	救急部	1,261	3.5	3,864	15.8
合 計		184,154	504.5	304,963	1,249.8

平成25年度

静岡県内入院・外来患者延数



平成25年度

都道府県別来院状況

都道府県	入院患者延数	外来患者延数	都道府県	入院患者延数	外来患者延数	都道府県	入院患者延数	外来患者延数
北海道	4	9	石川県	51	15	岡山県	37	36
青森県	6	13	福井県	0	9	広島県	99	47
岩手県	15	34	山梨県	50	77	山口県	0	3
宮城県	0	1	長野県	14	88	徳島県	0	0
秋田県	0	2	岐阜県	138	291	香川県	0	0
山形県	0	3	静岡県	173,801	299,278	愛媛県	0	8
福島県	13	47	愛知県	8,424	11,963	高知県	29	6
茨城県	6	34	三重県	255	192	福岡県	18	31
栃木県	8	21	滋賀県	37	41	佐賀県	43	11
群馬県	17	23	京都府	149	135	長崎県	0	1
埼玉県	17	133	大阪府	127	157	熊本県	0	3
千葉県	104	97	兵庫県	54	55	大分県	0	1
東京都	334	651	奈良県	50	44	宮崎県	3	8
神奈川県	297	415	和歌山県	0	2	鹿児島県	0	3
新潟県	7	10	鳥取県	4	56	沖縄県	0	18
富山県	5	11	島根県	0	5	合計	184,216	314,088

平成25年度

臨床検査件数（院内検査）

検査項目	一般検査	血液学的検査	生化学的検査	病理学的検査	生理機能検査	採血・採液等
件数	102,418	311,719	2,290,626	14,244	179,695	84,265
検査項目	内分泌学的検査	免疫学的検査	微生物学的検査	内視鏡検査	その他	合計
件数	65,505	301,722	27,178	10,599	38,885	3,426,856

平成25年度

手術件数及び麻酔件数

手術件数	5,734				
	うち内視鏡手術 669				
麻酔件数	全身麻酔	局所麻酔	脊椎・硬膜外麻酔	その他	合計
	3,661	1,510	252	311	5,734

平成25年度



X線撮影及び透視件数

区分		X線直接撮影	X線透視	CT	MRI	合計
患者数	入院	34,754	1,769	6,676	2,445	45,644
	外来	35,758	3,711	12,796	6,571	58,836
	合計	70,512	5,480	19,472	9,016	104,480

平成25年度

病理解剖件数

区分	男	女	合計
死亡患者数	199	107	306
病理解剖件数	18	5	23
剖検率(%)	9.0	4.7	7.5
受託解剖件数	1	0	1

平成25年度



3T MRI装置

分娩件数								
区 分	正常出生 体重児 (人)	低出生体重児(人)					巨大児(人)	合 計(人)
		500g未満	500g～ 1,000g未満	1,000g～ 1,500g未満	1,500g～ 2,000g未満	2,500g未満	4,000g以上	
経膣分娩	440			1	9	50	3	503
吸引分娩	46					3		49
鉗子分娩								0
予定帝王切開	89		3		1	25		118
緊急帝王切開	39	1	3	5	14	18		80
計(総分娩件数)	614	1	6	6	24	96	3	750
死産(内数)								0

平成25年度

薬剤件数				
調 剤 薬			注 射 薬	
院内外来処方箋	院外処方箋	入院処方箋	外来注射箋	入院注射箋
5,222	157,844	120,015	48,788	146,568

平成25年度

救 急 患 者 数						
来 院 原 因 別						合 計
疾 病	傷 病				妊 娠	
	事 故			小 計		
	交 通	中 毒	そ の 他			
5,966	364	76	1,142	1,582	709	8,257

平成25年度



シミュレーションセンター



ドクターヘリを利用した医療活動

外部資金受入れ状況

科学研究費補助金

研究種目	件数	交付額(単位:千円)
新学術領域研究	6	83,850 (19,350)
基盤研究(A)	1	14,820 (3,420)
基盤研究(B)	23	130,000 (30,000)
基盤研究(C)	99	159,900 (36,900)
挑戦的萌芽研究	33	44,395 (10,245)
若手研究(S)	0	0 (0)
若手研究(A)	1	8,840 (2,040)
若手研究(B)	47	71,110 (16,410)
研究活動スタート支援	4	5,200 (1,200)
特別研究員奨励費	1	1,100 (0)
奨励研究	7	4,200 (0)
合 計	222	523,415 (119,565)

()は間接経費を内数で示す 平成25年度
年度中の研究者の異動及び経費の繰越承認に伴う増減は含まない

厚生労働科学研究費補助金

件数	金額(単位:千円)
8	109,770 (22,273)

()は間接経費を内数で示す 平成25年度
年度中の研究者の異動及び経費の繰越承認に伴う増減は含まない

奨学寄附金

区分	件数	金額(単位:千円)
一般	635	602,326
助成金	19	43,300
合 計	654	645,626

平成25年度

受託研究

区分	件数	金額(単位:千円)
一般	68	416,337
治験	265	102,707
病理組織検査	6,444	37,911
合 計	6,777	556,955

平成25年度

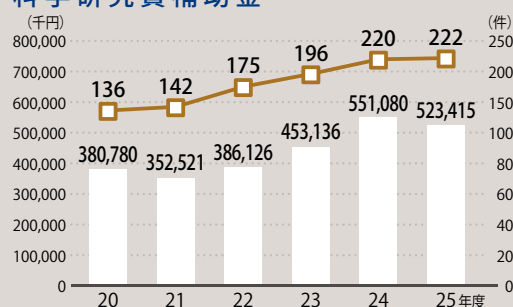
民間等との共同研究

件数	金額(単位:千円)
49	48,665

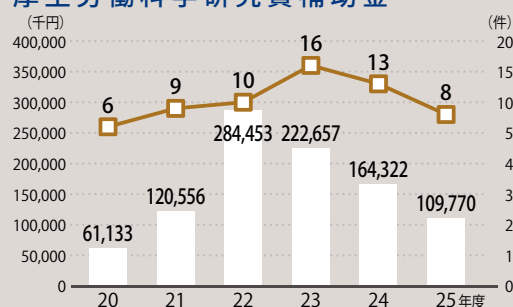
共同研究員費を含む

平成25年度

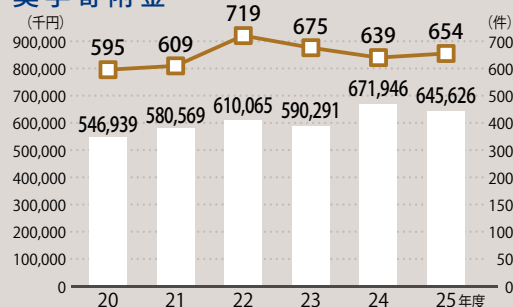
科学研究費補助金



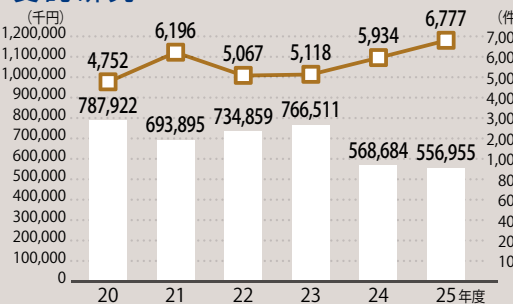
厚生労働科学研究費補助金



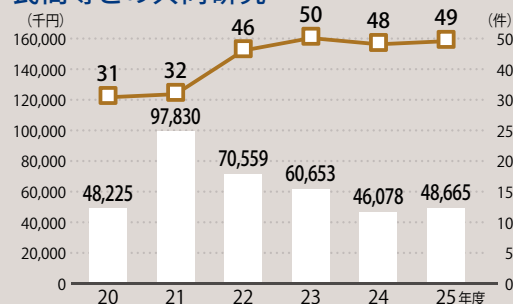
奨学寄附金



受託研究

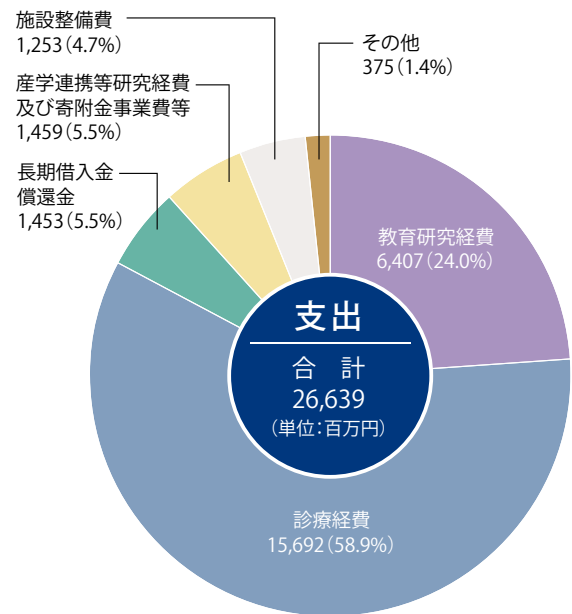
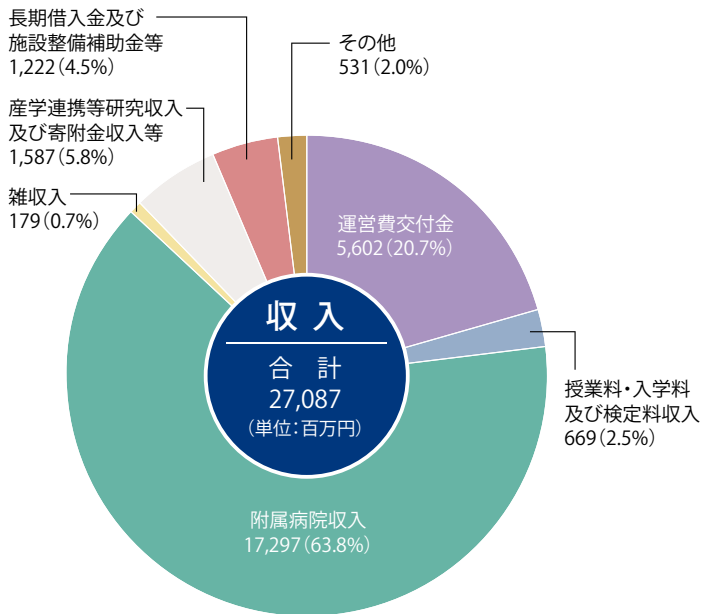


民間等との共同研究



財務、土地及び建物

平成25年度決算額



土地及び建物

区 分	土地 (㎡)	建 物 (㎡)		備 考
		建 面 積	延 面 積	
本 部	265,206	9,908	21,953	管理棟、職員会館、福利施設棟、体育館、課外活動施設棟、エネルギーセンター、武道館、附属図書館、国際交流会館、弓道場、保育所、立体駐車場(職員用)、その他
医 学 部		7,963	38,062	講義実習棟、基礎臨床研究棟、基礎臨床研究棟別館、臨床講義棟、RI 動物実験施設、看護学科棟、メディカルフォトンクス研究センター、その他
附 属 病 院		16,364	76,039	附属病院、MRI-CT装置棟、中央診療棟、PET-CT棟、立体駐車場(患者用)、サイクロロン棟、その他
看護師宿舎		1,419	5,526	医大舟岡山宿舎 2棟 129戸 〔構造RC-規格a 94戸〕 〔構造RC-規格b 35戸〕
職員宿舎(二)		897	3,313	医大半田山宿舎 3棟 60戸 〔構造RC-規格c 10戸〕 〔構造RC-規格b 50戸〕
職員宿舎(一)	35,408	3,845	13,753	医大宿舎 11棟 198戸 〔構造RC-規格c 188戸〕 〔構造RC-規格b 10戸〕
佐鳴台宿舎(一)	365	106	106	学長宿舎 1棟 1戸 (構造W-規格e)
佐鳴台宿舎(二)	707	207	207	副学長宿舎 1棟 1戸 (構造W-規格e)
三ヶ日艇庫	502	114	114	副学長宿舎・事務局長宿舎 2棟 2戸 (構造W-規格e)
合 計	302,188	40,823	159,073	艇 庫

平成26年5月1日現在

配置図



施設名称

① 管理棟(事務局)	⑮ 体育館
② 附属病院	⑯ 武道館
③ 臨床講義棟	⑰ 弓道場
④ 探索的臨床研究施設	⑱ プール
⑤ 産学官共同研究センター PET-CT棟	⑲ テニスコート
⑥ 看護学科棟	⑳ サッカー・ラグビーグラウンド
⑦ 基礎臨床研究棟別館	㉑ 野球場
⑧ 基礎臨床研究棟	㉒ 医療廃棄物処理センター
⑨ 動物実験施設	㉓ 国際交流会館
⑩ 講義実習棟	㉔ 医大宿舍
⑪ 福利施設棟	㉕ 慰霊塔
⑫ 附属図書館	㉖ 医大舟岡山宿舍
⑬ メディカルフォトリクス研究センター	㉗ 医大半田山宿舍
⑭ 産学官共同研究センター サイクロترون棟	㉘ 半田山会館

関連教育病院

➤ 浜松医療センター

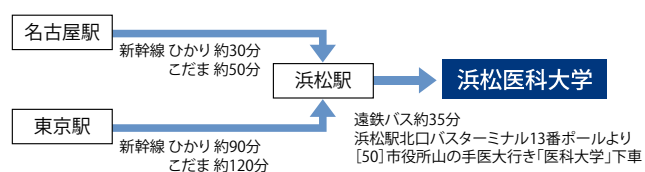
〒432-8580 浜松市中区富塚町328番地

病床数／606床(一般600、感染症6)

案内図

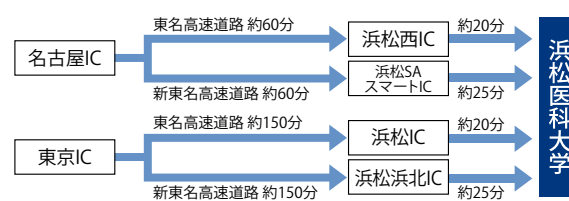


交通 [新幹線・バス]



※ひかりは一部のみ浜松駅停車

自動車





国立大学法人
浜松医科大学

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山一丁目20番1号

TEL.053-435-2111 (代)

<http://www.hama-med.ac.jp/>



学校教育法第109条第2項の規定に基づき、
平成19年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構による
「大学機関別認証評価」を受審し、
「大学評価基準を満たしている」と認定されました。

